

『トライ&amp;チャレンジ』

## Try &amp; Challenge

4/18(日)の第80回タウンミーティング  
は鴨ネギ鍋を囲む「記念大会」です。  
白川事務所で午後2時からです。  
会費は千円。是非お出で下さい!!

## 越谷の YES, WE CAN.

2月27日南米チリ大地震(M8.8)は、翌28日に日本にも津波被害をもたらしました。しかし、メディアがあれだけ津波警報を告げ、到着時刻を言い、避難を報道したにも拘らず避難率は6%に過ぎませんでした。地球の裏側から来る津波に対する警戒感の薄さと、日本人から津波被害の記憶を消し去ろうとする時間の経過がそうさせるのでしょうか?

私はこの警戒感の薄さと、越谷市だけは財政破綻などということは有り得ないという確証のない歴史の経過がダブって見えてきます。私たちが知らされなければならない事は、越谷の財政状況で1,400億円もの予算(前年比6%UP)を組めるのか!と言う事。国は『あれも、これも』の予算から『あれか、これか』の優先順位づけと徹底的にムダを排除するための事業仕分けに積極的に取り組んでいます。まずは高橋新市長が前任者から引き継いだ借金総額(2千億円といわれている)を市民に正確に知らせることが必要ではありませんか。

“私はここからスタートします”と宣言することで越谷の力を市民と共有しなければならないと思います。その上で600ある事務事業のうち限られた財源で優先順位をつけて実行に移さなければなりません。すなわち、優先順位を市民に説明しておく責任があります。もちろん予算から外れた当該主権者にもその理由を納得してもらわなければなりません。

政治への市民参加は、我々が選んだ市長と議会(議員)二元代表にそれぞれ責任を果たしてもらうための説明を求めることでもあります(西川)。

## ☆ 第78回タウンミーティング-H22.2.20

▶1期生議員から見た越谷市議会の現状と課題

ゲスト: 守屋 亨 議員

▶3月議会の課題について-白川議員

久々に30代の若者が参加(毎朝、千間台駅の演説を聞いての参加)。70代後半の高齢者(病氣療養後、体調が回復した)も参加し、多様な年代層の人達が集まった会となりました。



守屋議員から、一期生議員の気概とエネルギーに溢れたお話を聞き、活発な意見交換が行われました。

● 議会改革を語る  
守屋議員

## ☆ 第79回タウンミーティング-H22.3.20

▶「こしがや鴨ネギ鍋」ブランド化への歩み

ゲスト: 中島高明 前越谷市商工会青年部長

▶3月議会報告-白川議員

前回に続き、新たな30代の若者と20代の女性の参加(二人共街頭演説を聞いての参加)と、80代の高齢者の参加が続き、盛況な会となりました。

少子・高齢化の対応で歳出が増え、歳入が減る財政を建て直すために、事業の優先順位を決めて「何かをあきらめる」ことと、「稼げるプロジェクト」を作って産業を振興していくことをイメージすることに繋がりました。



● 「鴨ネギ鍋」のブランド化  
を語る中島青年部長

## □ 桜井地区議員団主催の「第5回桜井地区市政報告会」に参加-H22.2.21

▶ テーマ:3月越谷定例市議会

初めて市議会の前に市民集會が行われるという画期的な集會となり、議員団から3月議会に出されるH22年度予算案の概要説明が行われました。

実質的には赤字財政となっており、緊急時のために貯蓄していた財政調整基金 20 億円のうち、11 億円を取り崩さざるを得ないという予算案です。

それならば、事業仕分けを行なって、「何かをあきらめる」判断をすべきではないかという意見が出される等、活発な討議が行われました。

### ● 超党派による6人の 桜井地区議員団



## 越谷学生議会

5月10日(月)に『越谷市学生議会』が開催されます。定数は32名。公募16名と埼玉県立大学・文教大学選出の16名で構成されます。次代を担う学生が質問し、それに議員が応えるという模擬議会の体験を通じて、議会についての理解を深めるために開催されます。

公募対象者は市内在住の30歳未満の大学生、短大生、専門学生です。チャレンジしてみてください！



## 病気から思うこと

ある時、目の中で蚊のような黒い像がゆらゆらと動いて見えるようになった。調べた結果、飛蚊症(ひぶんしょう)ということ目での老化現象の一種ということであった。今はなくなってうとうとしない。

その後しばらくして、頭痛が2・3週間続き内科医の検診を受けた。血圧(95-155)が高いのでその影響でしようと言うことで、降圧剤を処方してもらい飲むようになった。さらに1週間、10日が経過しても回復する気配もいっこうになく、別の症状が現れた。パソコンの砂時計が斜めに見えるようになり、微妙に手が痺れるようになった。バイクの運転に違和感が出て、さらにはまっすぐ歩くことができなくなった。職場の同僚に「パーキンソン病ではないのか」と言われた。そして早く別の医者の診断をあおぐように勧められた。脳神経外科の門をたたき、MRIの診断の結果「慢性硬膜下血腫」という診断が下り、その日の午後3時から直ちに手術をすることになった。

脳の手術であるので愕然としたが、手術台に身をまかせる決断しか方法はなかった。手術は1時間ぐらいを要したであろう。頭蓋骨をドリルでくりぬくような音が耳に入り、適度な間隔で術中の血圧を測っているような音が聞こえた。痛さという苦痛はなく、むしろ心地よさがないわけではなかった。脳を圧迫していた悪い血が除去され、さらに脳に穴を開けて血腫を排出した。これを穿頭術(せんとうじゅつ)というらしい。入院はわずかに4日間であったが、長く感じた。頭をどこかでぶつけたことに起因し、酒の飲み過ぎも影響するようである。

病気に取り付かれると、落ち込んで精神が落胆してしまうことを知った。怖いのはむしろ意気消沈した己の気持ちである。どんな病気にかかっても、失意泰然の心意気が大事なことを思う(浅子)。

## ● 第18回がんばろう越谷グラウンド・ゴルフ大会

3月25日(木)に予定された第18回がんばろう越谷、グラウンド・ゴルフ大会は雨天のため3月31日に延期されました。参加者の皆様のご活躍を期待しています。

### 【シリーズチーム紹介】★フォーリーフクラブ

創立5年の老舗中堅クラブ。代表は3月に渡部止雄氏から岡部竹也氏にバトンタッチしたばかり。会員数27名(4月より3名増の30名の予定)。月例会1回、週3回の練習会を開催し、場所は月・木は大林ふれあい公園、金曜日はキャンベルタウン公園。チーム作りのモットーは「人に対する思いやり」(渡部止雄前会長)とのこと。



### ● フォーリーフクラブの皆さん

“がんばろう越谷大会”に参加していただいているチームを今後順次紹介して参ります

## 編集後記

- ✓ 第1号に続き第2号の発行です。タイトルは「トライ&チャレンジ」としました。
- ✓ タイトルどおり、まちづくり・市政に、越谷市民としてチャレンジしていきたいと思えます。
- ✓ やればできる「YES, WE CAN」もスローガンに掲げました。今後ともよろしくお付き合いください。